

令和 7 年 7 月 4 日

関係各位

記者会見のおしらせ

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

松山城土石流災害から 1 年が過ぎ去ろうとしています。この一年災害が発生した事実以外にも様々な事が起きました。

原因究明も、復旧工事もまだまだ時間要する状況です。

令和 7 年 7 月 11 日、記者会見で予定している内容は下記の通りとなります。

- ・有志の会「松山城とともに生きる会」設立のご案内
- ・技術検証委員会開催のお礼
- ・独自の原因究明結果と今後の検証の進め方について
- ・民事裁判の可能性について
- ・その他

熱海市土石流原因究明プロジェクトチーム

清水 浩

携帯：090-3392-2429
Mail : shimizu@cim-tech.jp

令和7年7月11日

(仮称)「松山城とともに生きる会」設立のご案内

令和6年7月12日未明、松山城緊急車両用道路を起点とした土石流災害により、私たちの生活は一変しました。

この災害をきっかけに、松山城全体の安全管理に対する関心が高まり、私たちは「地域住民として何かできることがあるはずだ」という思いのもと、(仮称)「松山城とともに生きる会」を発足するに至りました。

松山城は、人口50万人を有する松山市のシンボルであり、多くの住民がその景観に魅せられ、この地を居住の場として選んでいます。私たちはこれからも、この城山と共に生活します。しかし、行政任せではなく、住民一人ひとりが主体的にこの城山を守る意識を持つことが大切だと考え会の発足を決めました。

活動の目的

私たちは、松山城と共に生活していくため、次のような活動を目指します。

- 松山城周辺における土砂災害の原因究明
- 地域住民による日常的な点検活動の実施と、異常発見時の通報ルートの確保
- 他団体との交流や意見交換会の開催による情報共有と連携強化

活動の第一歩として

まずは、将来的な対策工の要望や提言の土台となるよう、1年前に発生した土砂災害の正確な原因究明を行います。

住民だけでは不安が残るため、法律や土木の専門家と連携し、独自の調査と検証を進めています。その結果を取り纏め、行政との対話の場を設けることを目指していきます。

(仮称)「松山城とともに生きる会」は、防災士1万人を擁する松山の力を生かしながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指します。どうか皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

直近の活動予定

7月11日13時：愛媛県記者クラブにて会発足のお知らせ

7月12日17時：「松山城とともに生きる会」公開ワークショップ開催

場所：しいのみ集会所
愛媛県松山市緑町1丁目1

公開ワークショップの議案

- ・活動方針について
 - 定期ワークショップの開催について
 - 役割分担について
 - 活動費の調達
- ・会員の定義
 - 地域住民との連携
 - 松山市民との連携
 - 有志の会支援者との連携
- ・お城山の地域住民による安全管理について
 - 松山市との連携体制の確立など
 - 異常個所発見時の通報ルートの確認など
- ・他団体の交流について
 - 熱海市伊豆山土石流災害真相究明の会とのWEB会議開催など
- ・松山市が行った住民説明会での、緊急車両用通路の検証の実態
- ・松山城土砂災害の原因究明報告（中間報告）
- ・弁護士とのWEB会議（予定）
- ・その他

以上